赤米サミット終了後に行わ れた記念撮影。新本小学校の 児童の前で力を合わせて日本 新本の様子。同小の児童や各 地域の保存会のメンバーの前 で、赤米の日本遺産認定につ いて話し合われた(写真右)





新本で行われた相 川さんと新本小学校 の児童らによる赤米 の田植え。角谷琉空 は、「田植えは初めて だったけどとても楽 しかった。おいしい 赤米になるように、

の伝承活 ことを再確認しました から赤米文化を守っ んゆくもの サミッ どもたち ・のテー 互. を歴史の に協力 っていったしな 各 わ赤

史的魅力や特色を通し し、国内外への魅力発 月に18件を、「日本遺 産」として初認定した。 2020年の東京オリン ピックまでに 100 件程 度の認定を目指す。

メンバーらが、本主国 19人、新本本庄赤米保存会の人、新本本庄赤米保存会の を植え付け、 取られながっ ないながら 意を新たに (新本)の神田で赤米のンバーらが、本庄国司神 きした。 5 め かるみに足を 下寧に苗 児童ら るイ

る歌手

七瀬さん

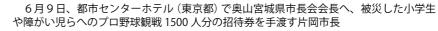
問い合わせ 文化課文化財係本遺産の認定を目指していこう 「赤米伝統文 化交流協定」 赤 in

米の日を

年3月に、 を締結した 赤米伝統

> と述べました。 わせ取り組ん で V

被災地支援「そうじゃ・宮城っ子基金 呈





「そうじゃ・宮城っ子基金」 新たな支援のかたち

問い合わせ 政策調整課 (**25**92 8213)

総社市では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で、両親を失った震災当時中学生以下の宮城 県内の子どもに対し、市内外から集まった募金を「そうじゃ・宮城っ子基金」として、1人年間10万円を 5年間支給する支援を行ってきました。

「そうじゃ・宮城っ子基金」による支援は当初予定していた5年間を経過しました。皆さまからいただい た募金の今後の活用について、宮城県市長会の奥山恵美子会長と協議。このことを受け、5月21日に開催 された東日本大震災支援対策会議で、2つの事業へ移行することが決定しました。

被災地支援「そうじゃ・宮城っ子基金デー」 被災した子どもらを、プロ野球観戦へ招待 &野球少年団チームの交流試合を開催

宮城県内の子どもらを、6月28日に仙台市のコボスタ宮城で開 かれる、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスの試合観戦に招 待することにしました。「そうじゃ・宮城っ子基金」をとおして支 援を行っていた79人のほか、親や親戚を亡くしたり、被害が甚大 だった地域の小学生や障がい児など 1500 人が対象。前日の 27 日 には、仙台市と総社市の野球少年団の交流試合も行われます。

これらは、震災で大きな悲しみを経験した子どもに、スポーツ をとおして勇気と希望をもってもらい、また、総社市は今後も引 き続き支援を行っていくことを伝えようと企画したものです。



子どもの希望ある未来への成長を応援

「杜の都・仙台絆寄付」への支援移行 復興事業を目的とした仙台市の「杜の都・仙台絆寄付」に、「そうじゃ・宮城っ

子基金」の残金を移し、被災した子どもらの支援に役立ててもらいます。 今後も、「そうじゃ・宮城っ子基金」を継続させ、いただいた寄付金につい ては、「杜の都・仙台絆寄付」につなげていきます。